

カンタータ第62番《いざ来ませ、異邦人の救い主よ》BWV62

J.E.ガーディナー指揮の同曲CD[POCA-1067] 添付解説・鳴海史生氏（[]内は萩野注）、
歌詞対訳・萩野（参考：上記・礒山雅氏の訳）

初演 1724年12月3日（待降節第1日曜日）、ライプツィヒ。

福音書 マタイ21.1～9（イエスのエルサレム入城）。

歌詞 作者不詳。

第1・6曲：M.ルターのコラール<いざ来ませ、異邦人の救い主よ> (1524) 第1・8節

第2～5曲：同コラール第2～7節の書き換え。

編成 S Ms T Br、合唱：Hn, Ob2, str bc。

基本資料 自筆総譜、オリジナル・パート譜、新全集 I/1

ライプツィヒでバッハが迎えた、2度目の教会新年の折に書かれた作品。教会暦に合わせて曲集をまとめる場合、当時はこの待降節第1日曜日を起点とするのが普通であったが、バッハは前年度分の作曲を三位一体節後第1日曜日から始めたため、新教会年にはいってもなお「コラール・カンタータ」の創作が続いていた。BWV62もまたそのひとつで、ルターの同名コラール[BWV61と同じ]が基になっている。BWV61が有名な分だけ、こちらはいまひとつ演奏される機会も少ないけれども、主の来臨への期待に溢れた、いずれ劣らぬ美しい音楽であり、作曲技法の円熟にかけては、むしろ前作を凌いでいる。

第1曲 コラール合唱 hn, ob2, str, bc 口短調、4分の6拍子

ルターのコラール第1節。「喜びのモチーフ[長短短のリズム]」（シュヴァイツァー）を中心とした、活気のある器楽リトルネッロに始まる。合唱楽節では、定旋律がホルンを伴ったソプラノに置かれ、下3声は、行ごとに趣を変えつつ、ポリフォニックな模倣を繰り返す。

**Nun komm, der Heiden Heiland,
der Jungfrauen Kind erkennt,
des sich wundert alle Welt,
Gott solch Geburt ihm bestellt.**

**いざ来たれ、異邦人の救い主、
乙女の子として知られ
全世界の驚きとなるお方よ、
神がこのような誕生を定められた。**

<萩野解説 編曲要素でBWV61第1曲と共通する部分があることは、BWV61の解説にて述べましたが、こちらの構成は、今後のコラール・カンタータ序曲の定番とも言える、ソプラノが歌う定旋律に下3声が比較的自由的な主題の多旋律で絡む方式で、曲中の合唱の稼働率は低いです。弦楽器や通奏低音が8分音符で同音を反復するパターン（中にはベートーベンの「運命」の主題のようなものも...）が多数出現しますが、どれも続く強拍に向かってやや発展するように（ただしやり過ぎると嫌味）奏すると、この曲の持つある種の緊張感が増します。合唱の歌い出しの直前には、オーボエがコラール旋律第1行を奏しますが、合唱のコラール第3行歌い出しの直前にのみそれが無いのは、「驚き」を演出するのが目的なのでしょうか？ 曲の速さは歌詞第3行部分の下3声メリスマを歌いこなせるテンポで決まります。

Nun komm, der Heiden Heiland

合唱下3声は歌い始めてから5小節後にソプラノに定旋律が登場します。オーボエと合唱下3パートのコラール旋律第1行の決まったところにトリルが付きますが、これはHeilandという単語の最初の音に相当します。したがって、通奏低音とソプラノ定旋律の対応するところにもトリルを施すべきでしょう。BWV61第1曲ほどに感情移入できませんが、やはりこの中ではkommを最重要単語として扱うべきでしょう。

der Jungfrauen Kind erkennt

下3声は4分音符の下降音型が支配的です。

des sich wundert alle Welt

旋律的には驚きによって生じた混乱が描かれているように感じます。

Gott solch Geburt ihm bestellt

構造的には第58小節からが第1行部分の再現です。>

第2曲 アリア (T) ob2, str, bc ト長調、8分の3拍子

処女より御子が生まれる奇跡への感嘆。全曲が教会調の古風さを留めていたのに対し、この舞曲リズムのアリアは、輝くばかりの新鮮な喜びに満ちる。ダ・カーポ形式。

Bewundert, o Menschen, 驚くがいい、おお人間よ、この偉大な秘義を。
dies große Geheimnis:

der höchste Beherrscher erscheint der Welt. 至高の支配者がこの世に現われるのだ。

Hier werden die Schätze ここで天の宝は発見され、

des Himmels entdeckt,

hier wird uns ein göttliches Manna bestellt, ここで神のマナがわれらにふるまわれる。

o Wunder! die Keuschheit おお、奇跡よ！ 処女の純潔は、

wird gar nicht beflecket. 一点の汚れも受けないのだ。

<萩野解説 この曲の基調は「驚き」とともに生じる「喜び」です。>

第3曲 レチタティーヴォ (Br) bc

やがて生まれ出る救い主は、ここで「勇士」として捉えられる。

So geht aus Gottes Herrlichkeit und Thron そうですね、神の栄光とその玉座から、
sein eingeborner Sohn. ひとり子が出た。

Der Held aus Juda bricht herein, ユダ族の勇士が忽然とあらわれ、

den Weg mit Freudigkeit zu laufen 喜ばしく道を走り

und uns Gefallne zu erkaufen. 墮落したわれらをあがなう。

O heller Glanz, o wunderbarer Segensschein! おお、晴れやかな輝き、おお奇しき祝福の光よ！

<萩野解説 通奏低音の長さは、最後の2分音符以外は4分音符長以上の長さの音符を全て4分音符長で奏して良いでしょう。>

第4曲 アリア (Br) str, bc 二長調、4分の4拍子

前曲を受けての、たくましく力強い音楽。通奏低音は一貫して「騒ぎのモチーフ」を奏し続けるが、バッハはこれに他の弦をオクターヴで重ね、見事な効果をあげている。バリトンには高度なコロラトゥーラ歌唱の技術が求められる。ダ・カーポ形式。

Streite, siege, starker Held, 戦え、勝利せよ、強い勇士よ、
sei vor uns im Fleische kräftig! われらのために肉体を強く保ちたまえ！

Sei geschäftig, たゆまぬ努力で

das Vermögen in uns Schwachen われら弱き者の秘められた力を

stark zu machen! 強めたまえ！

<萩野解説 戦闘的な強気な表現が中心となりますが、中間部は「弱き者」の立場での言葉なので、少し柔らかな歌い方をします。>

オルガン譜修正案： 原案だとオルガンの最後の音のみが不自然に残ります。

第1～2小節：Bärenreiter original

修正案



対応する第4、10、45、47小節も同様です。>

第5曲 レチタティーヴォ (S Ms) str, bc

楽想は再度一変し、御子の栄光を密やかに讃える。ソプラノとメゾ・ソプラノが3度の平行でアリオソ風に語り、黙想と希望の時期にふさわしい、親密な感情を醸し出す。

Wir ehren diese Herrlichkeit
und nahen nun zu deiner Krippen
und preisen mit erfreuten Lippen,
was du uns zubereit;
die Dunkelheit verstört uns nicht
und sahen dein inendlich Licht.

われらはこの栄光をあがめ
あなたの居る馬槽に近づいて
喜びにあふれた唇でたたえよう、
あなたがわれらに備えてくださったことを。
暗闇もわれらの妨げにはならない、
われらはあなたの限りない光を見たのだから。

<萩野解説 赤子を見る時のような優しさに始まり、後半は信仰心に基づく強さが加わります。

オルガン譜修正案： 原案は総譜の数字が書いてある位置を曲解したものです。数字通りに演奏するならば、定石では4-6を第4拍表、#-5を第4拍裏で、各々8分音符長とすべきですが、そうすると4-6が弦楽器群の和音とディスコードするため、4-6は捨てて下記修正案のように演奏するのが既成録音では一般的です。

第7～8小節：Bärenreiter original

修正案



第6曲 コラール (合唱) hn, ob2, str, bc 口短調、4分の4拍子

ルターのコラール第8節。三位一体への讃美が、簡潔な、しかし含蓄の深い和声によって歌われて、全曲を閉じる。

Lob sei Gott, dem Vater, ton,
Lob sei Gott, sein'm ein'gen Sohn,
Lob sei Gott, dem Heiligen Geist,
immer und in Ewigkeit!

神に讃美あれ、父なる神の成されたことに、
神に讃美あれ、神のひとり子に、
神に讃美あれ、聖霊なる神に。
常にそして永遠に！

<萩野解説 BWV61・62中でこのタイトル・コラールが4声体で歌われる唯一の曲です。3回のLob sei Gottの最後のGottを4分音符で歌うパートは、その直後のカンマの間を取ります。>

*参考：コラール第2～4節歌詞

第2節

Er ging aus der Kammer sein,
dem kön'glichen Saal so rein,
Gott von Art und Mensch, ein Held;
sein' Weg er zu laufen eilt.

彼は神の部屋から出て、
清らかな王の広間に来られた。
神がそのやり方と人から勇士をもたらした。
神の道を彼は急いで走る。

第3節

Sein Lauf kam vom Vater her
und kehrt wieder zum Vater,
fuhr hinunter zu der Höll
und wieder zu Gottes Stuhl.

彼の道は父（なる神）から始まり、
そして父に戻る。
それは地獄に下り、
そして神の座に戻る。

第4節

Dein Krippen glänzt hell und klar,
die Nacht gibt ein neu Licht dar.
Dunkel muß nicht kommen drein,
der Glaub bleibt immer im Schein.

馬槽はさやかに輝き
夜は新たな光を放つ、
暗い闇が入り込む隙はない。
信仰はいつもその輝きの内に留まる。